

12. イネいもち病、紋枯病に対する嵐箱粒剤、嵐粒剤の効果（技術）			
[要約] メトキシアクリレート系の新規殺菌剤である嵐箱粒剤及び嵐粒剤はイネいもち病、紋枯病に対して実用性が高い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

イネいもち病、紋枯病が同時防除できるメトキシアクリレート系の新規殺菌剤（嵐箱粒剤、嵐粒剤）が開発されたので、実用性を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

- 嵐箱粒剤、嵐プリンス箱粒剤 10 の箱当たり 50 g の移植当日処理は、葉いもちに対する効果が高く、穂いもちに対しても効果が認められた（図 1）。また、嵐箱粒剤の紋枯病に対する効果は高かった（図 2）。
- 嵐粒剤の本田散布（10a 当たり 3 kg）は、いもち病（葉いもち、穂いもち）に対する効果が高く（図 3）、紋枯病に対しても効果が認められた（図 4）。
- 両薬剤とも散布による薬害は認められなかった。

以上の結果から、嵐箱粒剤及び嵐粒剤はイネいもち病、紋枯病に対して実用性が高いと考えられる。

[成果の活用面・留意点]

- 葉いもち防除に嵐箱粒剤または嵐粒剤を使用した圃場でも、出穂期以降の気象や栽培条件（品種、施肥量等）により、本田での穂いもちの多発が予想される場合は、穂いもちの防除も必要である。
- 薬剤耐性菌の発達を防止するため、葉いもち防除に嵐箱粒剤または嵐粒剤を使用した圃場では、穂いもち防除にはメトキシアクリレート系の薬剤であるオリブライト 1 キロ粒剤、イモチエース粒剤等の使用は控え、他系統の薬剤（ブラシン、カスラブサイド、コラトップ等）を使用する。
- 嵐粒剤の使用時期は、穂いもちには「出穂 25～5 日前まで」、紋枯病には「出穂前日まで」であるが、同時防除をねらう場合は出穂 15 日前を目安に散布する。
- 嵐プリンス箱粒剤 10 は、箱当たり 50 g の播種時覆土前処理も可能である
- 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準や使用上の注意事項等を遵守する。

[具体的データ]

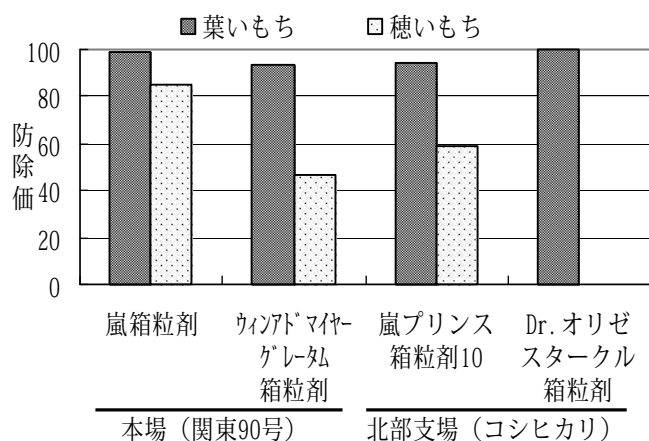


図1 嵐箱粒剤のいもち病に対する防除効果 (平成14年)
 注) <本場> 薬剤処理日: 6月20日 (移植当日)。調査日: 葉いもち; 8月1日、穂いもち; 9月18日。発病程度: 葉いもち; 甚、いもち; 甚
 <北部支場> 薬剤処理日: 5月16日 (移植当日)。調査日: 葉いもち; 7月23日 穂いもち; 9月5日。発病程度: 葉いもち; 少、いもち; 少

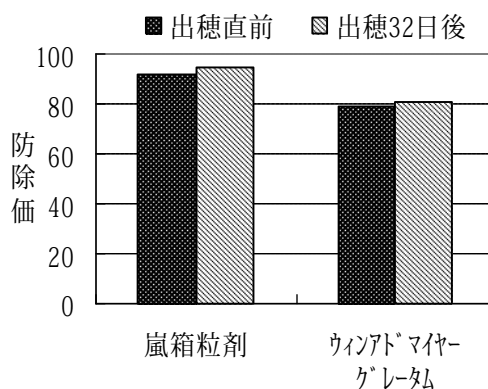


図2 嵐箱粒剤の紋枯病に対する防除効果 (平成14年)
 注) 薬剤処理日: 6月20日 (移植当日)。調査日: 8月22日 (出穂直前)、9月25日 (出穂32日後)。発病程度: 中

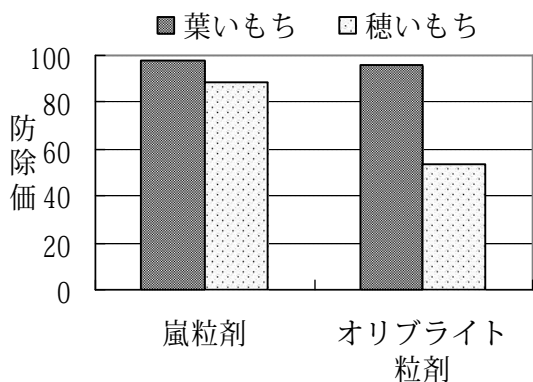


図3 嵐粒剤のいもち病に対する防除効果 (平成15年)
 注) 薬剤処理日: 7月16日 (初発9日後)。調査日: 葉いもち; 8月4日、穂いもち; 9月24日。発病程度: 葉いもち; 甚、穂いもち; 甚

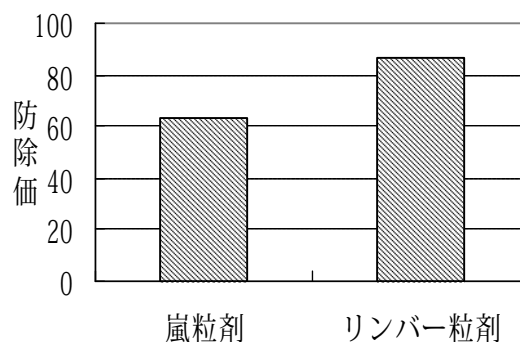


図4 嵐粒剤の紋枯病に対する防除効果 (平成14年)
 注) 薬剤処理日: 8月6日 (出穂16日前)。調査日: 9月25日 (出穂32日後)。発病程度: 中

[その他]

試験研究課題・事業名: 水稻主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験
 予算区分: 県単
 研究期間: 平成14~17年度